

第5章 重点プロジェクト

望ましい将来像を実現するため、市民ワークショップによる提案、環境推進管理委員会の提言をもとに、9つの重点プロジェクトを設定しました。

重点プロジェクトは、環境基本計画を具体的に推進することを目的としており、第4章に示した主な施策、具体的な施策の中から、分野横断的に相乗効果を発揮するような重要性の高い施策により構成しています。また、毎年度の進捗よく状況を点検・評価し、進め方の見直しを行います。

重点プロジェクト

- ① 在来生物の種や生態系など生物多様性の保全に向けた取組の推進
- ② 地産地消の推進による都市農業の支援
- ③ 野川、用水路及び湧水などの地域資源の保全・活用
- ④ 安全・安心な暮らしの確保に向けた調査と情報提供
- ⑤ 自転車・公共交通機関の利用促進
- ⑥ 歴史的景観や文化財の保全・活用
- ⑦ 資源循環型のまちづくりの推進
- ⑧ 環境負荷の少ないライフスタイルの促進
- ⑨ 環境面における参加と協働による地域の活性化の推進

在来生物の種や生態系など生物多様性の保全に向けた取組の推進

■ 取り組む背景・目的

国分寺市の地形的特徴である「国分寺崖線」を中心とした崖線緑地，樹林地，都市農地や屋敷林，お鷹の道・真姿の池湧水群，野川及び姿見の池などの国分寺の緑と水は，多様な動植物の生息域であると同時に，市民と自然との関係をつなぎ直してくれるかけがえのない存在です。都市化の進展にともなって寸断化が進んでいる，これらの緑地や水辺を有機的に連続させて緑と水のネットワーク化を進め，そこに息づいている生き物たちとの共存共生を図っていきます。

■ 取組内容

- 協働による動植物調査の実施により現状を把握します。
- 生き物にふれあう機会を増やすとともに，在来生物の種や生態系などの保全に向けて市内の農地や国分寺崖線などの緑の保全に取り組んでいきます。

各主体による具体的取組（例）

市民	事業者等	市
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家のまわりの生き物を観察します。 ・ 敷地内にある自然の保全に努めます。 ・ ペットの動物（鳥，魚，昆虫など）を自然の中に放しません。 ・ 崖線，公園などの身近な自然の管理や清掃に参加・協力します。 ・ 市や市民が実施する自然観察会などに参加します。 ・ 生物多様性に関する情報を提供します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 敷地内の緑化，壁面・屋上緑化などに努めます。 ・ 開発にあたっては，緑の保全に努めます。 ・ 崖線，公園などの身近な自然の管理や清掃に参加・協力します。 ・ 生物多様性に関する情報を提供します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の動植物の現況を調査し，情報を公開します。 ・ 外来生物対策を実施します。 ・ 学校などにビオトープを整備して，自然に親しむ機会を増やします。 ・ タヌキ，カッコウ，ホタルなどの多様な生き物が生息できる環境を保全・回復します。 ・ 生物多様性に関する情報を提供します。 ・ 現状の緑被率を確保します。 ・ 崖線緑地の保全のための施策を進めます。

地産地消の推進による都市農業の支援

■取り組む背景・目的

農地は、新鮮で安全な野菜の供給基地であるばかりではなく、生き物の生息空間、雨水の保水、地下水の涵養、景観の形成、災害時の避難場所など、様々な機能を有しており、地域の貴重な緑となっています。

しかし、市域の西部（府中街道以西）に多くの農地が残されているものの、宅地化によって農地の分断・減少が進んでいます。昭和59年に256ヘクタールあった農地は約4割が失われ、平成24年には、159.5ヘクタールとなっています。

このような減少傾向の農地を守るためには、市内産農産物の利用を促進し、営農が続けられる状況を保つことが必要です。そのためには、市内産農産物の流通を促進し、農業に対する理解と関心を高めることが欠かせません。

このため、農地を担う都市農業を支援し、環境への負荷の少ない国分寺ならではの豊かな食生活の普及、農への参加を通じたふれあい・交流を広げます。

■取組内容

- 農業体験などを通じて都市農業への理解を促進します。
- 給食食材への市内産農産物の活用やイベント・直売所での販売などを通じた地産地消の推進、農畜産物及び農畜産物の加工品の国分寺ブランドの創出・育成を推進します。

各主体による具体的取組（例）

市民	事業者等	市
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元で生産された農畜産物を進んで購入します。 ・ 市民農業大学などに参加し地域の農業を学びます。 ・ 援農ボランティアなどを通じて都市農業を支援します。 ・ 食の安全と農業への理解を深めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新鮮で安全な農畜産物を地元へ供給します。 ・ 環境に配慮した農業経営をします。 ・ インターネットなどを利用して農業情報を発信します。 ・ 農業体験に協力します。 ・ 農地の保全に努めます。 ・ 地元で生産された農畜産物を進んで購入します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学童農園で農業に親しむ機会を増やします。 ・ 市民農業大学などで、援農ボランティアの育成に努めます。 ・ 収穫体験や農ウォークなど農業にふれあう機会を増やします。 ・ 地元で生産された農畜産物の販路の拡大など、農業経営を支援します。

野川、用水路及び湧水などの地域資源の保全・活用

■取り組み背景・目的

現在市内には、名水百選の一つに指定されている「お鷹の道・真姿の池湧水群」などの湧水や、市内の湧水を水源とし多摩川に合流する全長 20km ほどの一級河川である野川、玉川上水からの分水である砂川用水などの水辺があります。

水を取り巻く国分寺の近世の歴史を振り返ると、国分寺村分水（恋ヶ窪用水）をはじめ新田開発とともに整備された野中新田分水、中藤新田分水など用水路網は人々の暮らしに欠かせないものでした。これらの用水路も、昭和 30 年代までは清流の面影をとどめていましたが、昭和 40 年代になると、砂川用水など一部を除き通水を停止、荒廃が進みました。用水路は歴史遺産であり、適切に保存し、活用していくことが大切です。

また、野川は市内唯一の河川ですが、コンクリート三面張りの護岸になっており、生き物が生息しにくい環境であり、親水性に乏しく、景観形成上も良好とはいえない状態です。野川や用水路は、親水化に向けた整備を進める必要があります。

国分寺の自然を特徴づけ、多様な生き物を育み、自然とのふれあいを提供し、歴史・文化を伝えてくれる、いわば地域の資源ともいえる水辺を守り、活用します。

■取組内容

- 野川や用水路及び湧水などの水辺を、自然観察や自然保護活動、郷土学習、観光などの資源として活用、PR します。
- 野川や用水路などの親水性の向上に配慮した保全に取り組めます。

各主体による具体的取組（例）

市民	事業者等	市
<ul style="list-style-type: none"> ・ 敷地内に雨水浸透ますを設置するとともに、雨水を活用するなど、節水に努めます。 ・ 緑や土の面を残して雨水を地下浸透させます。 ・ 湧水の保全活動に参加します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨水貯留施設を設置するなど、降水時の下水への雨水流入を抑制するほか、雨水を有効に利用するとともに、節水に努めます。 ・ 敷地内に雨水浸透ますを設置します。 ・ 緑や土の面を残して雨水を地下浸透させます。 ・ 開発にあたっては湧水保全に配慮したまちづくりをします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨水浸透施設の整備や雨水浸透舗装を進めます。 ・ 雨水の浸透や貯留について市民や事業者への啓発を進めます。 ・ 湧水の水質を保全するために、定期的に測定を行います。 ・ 砂川用水、恋ヶ窪用水など親水性に配慮した整備を進めます。 ・ 野川の整備については、東京都と連携しながら進めます。

安全・安心な暮らしの確保に向けた調査と情報提供

■ 取り組む背景・目的

東日本大震災以降、安全・安心な暮らしに対する関心が高まり、情報の重要性が改めて認識されています。

市民の安全・安心な暮らしの確保に向けて、大気、水質などの測定、各種調査を実施しています。引き続き、大気などのモニタリングや化学物質対策を進めていく必要があります。

農薬の過度の使用や遺伝子組換え食品、食品添加物、放射性物質など、安全で健康的な食生活への不安が高まっていることから、正確な情報公開・提供を行うなど、食の安全性を確保していく必要があります。

このため、身の回りの多種多様な化学物質、食の安全性、放射性物質などについての適切な情報の収集とわかりやすく提供する仕組みを確立します。

■ 取組内容

- 大気、水質、ダイオキシン類などの定期的なモニタリング、各種調査を実施し、情報提供を行います。
- 市放射能対策に関する基本的な対応方針に基づき、空間放射線量・放射性物質濃度の測定など、継続した調査と情報提供を行います。

各主体による具体的取組（例）

市民	事業者等	市
<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全・安心な暮らしのための情報を入手します。 ・ 身の回りの化学物質、食の安全性などについて理解を深めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全・安心な暮らしのための情報を入手します。 ・ 製品・サービスの提供にあたっては、安全・安心のための情報について、わかりやすく公開します。 ・ 有害の恐れのある化学物質について、排出量を把握し、適正に管理します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気、水質、ダイオキシン類などの測定、各種調査を実施します。 ・ 空間放射線量・放射性物質濃度の測定を実施します。 ・ 広報やホームページにより、わかりやすく情報を提供します。 ・ 有害の恐れのある化学物質について、適正な管理指導、啓発の普及を図ります。

自転車・公共交通機関の利用促進

■ 取り組む背景・目的

自転車は、環境負荷の少ない乗り物として、日常的に広い年齢層で利用されています。誰もが安心して、安全に自転車に乗ることができる環境をつくるには、歩行者と自転車が安全に共存できるようにするためのまちづくりや、通行ルールの徹底、放置自転車を減少させるための方策が求められています。

また、自家用車の利用を控え、二酸化炭素の排出の少ない電車やバスなどの公共交通機関を利用することで、交通の流れの円滑化や1人あたりの二酸化炭素(CO₂)をはじめとした温室効果ガスの排出抑制などの効果が期待できます。

このため、自転車や公共交通機関の利用促進に向けた普及啓発をするとともに、自転車が安全・快適に走行できる道路空間を確保します。

■ 取組内容

- 自転車が安全に走りやすい環境づくりを進めるとともに、自転車の利用促進とルールの啓発に努め、マナーの向上を図ります。
- 地域バスなどの公共交通機関の利用促進に向けた取組を行っていきます。

各主体による具体的取組（例）

市民	事業者等	市
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車を利用し自家用車の使用を控えます。 ・ 公共交通機関などを利用し、自動車利用は控えます。 ・ 自転車駐車場など決められた場所に正しく駐輪します。 ・ 人通りの多い場所では、安全のため自転車を降りるなど利用ルールを守ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通機関などを利用し、自動車利用は控えます。 ・ 店舗や事業所、集合住宅に自転車駐車場を確保します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通機関の利用を促進し、啓発を行います。 ・ 自転車駐車場の整備を進めます。 ・ 都市計画道路の整備の際に自転車レーンの設置を検討します。 ・ 自転車の利用ルールの啓発に努め、安全な自転車利用の意識を高めます。

歴史的景観や文化財の保全・活用

■取り組む背景・目的

市は、国分寺崖線や樹林地，農地，お鷹の道・真姿の池湧水群，史跡武蔵国分寺跡，用水路などの地域資源，それにまつわる歴史的景観や文化財を有しており，これらを後世に残していくことが大切です。

地域の自然やそれに関わる地域の暮らしや文化を学ぶことは，郷土愛を育むとともに，自然と共存して暮らす知恵と工夫を生み出すきっかけとなることから，市の歴史・文化をテーマとした環境教育・環境学習を推進します。

■取組内容

- 市内総合文化財調査を実施し，新たな文化財などの状況把握，適切な保全を行います。
- 新田開発以降の人々の暮らしの中から生まれた農のある風景，用水路（跡）など歴史遺産にも光をあてていきます。
- 環境教育や環境学習，まちづくりやまちおこしのために歴史的景観・歴史遺産・文化財の活用を推進します。

各主体による具体的取組（例）

市民	事業者等	市
<ul style="list-style-type: none"> ・ まちの成り立ちや史跡，歴史遺産や文化財など，市の歴史・文化への理解を深めます。 ・ 地域に伝わる伝統行事・芸能・民話・伝承や風習などへの理解を深め次世代に引き継ぎます。 ・ 歴史イベント，遺跡発掘体験などに参加します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開発や建設を行う際は，歴史的たたずまいや，歴史遺産，文化財の保全に協力します。 ・ 地域の歴史・文化に関心を向け，伝統行事の伝承活動など社会貢献活動に協力します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡武蔵国分寺跡周辺の整備，歴史公園の充実を図ります。 ・ 文化財めぐりなど歴史・文化を理解する機会を充実します。 ・ 用水路（跡），湧水，名木など市内の歴史遺産や景観のPRに努めます。 ・ 郷土博物館を建設し，文化財を活用します。

資源循環型のまちづくりの推進

■ 取り組む背景・目的

地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO₂）をはじめとした温室効果ガスの排出抑制、最終処分場の延命化のためには家庭ごみ（もやせるごみ、もやせないごみ）の減量が必要です。

ごみ・資源物量全体及び1人1日あたりのごみ排出量は、減少していますが、未だにもやせるごみに資源物が混入されていることから、ごみの分別について、指導、啓発をさらに続けていく必要があります。また、ごみの有料化や個別収集システムの導入を契機にして、着実なごみ減量に向けた数値目標を設定し、実現を図る必要があります。

さらに、市民生活、事業活動などの各段階において、ごみの発生そのものが少ない社会を目指し、ごみが資源・エネルギーとして再利用できる資源循環型のまちづくりへの転換を市民・事業者等・市が一体となって推進していきます。

また、地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO₂）をはじめとした温室効果ガスの排出抑制のための対策として、資源循環型のまちづくりを推進します。

■ 取組内容

- ごみをテーマとした環境教育・環境学習を充実していきます。
- せん定枝や給食残さのたい肥化などにより、資源循環型のまちづくりを進めます。
- 生ごみのたい肥化等によるもやせるごみの大幅な減量に取組みます。

各主体による具体的取組（例）

市民	事業者等	市
<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみの分け方・出し方のルールを守ります。 ・ 生ごみたい肥化容器などで生ごみのたい肥化に努めます。 ・ リサイクル商品及びリサイクルが容易な製品を購入します。 ・ 買い物に行くときはマイバッグを用意します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみの発生抑制，資源化に努めます。 ・ 再資源化や再生利用しやすい製品の販売，利用に努めます。 ・ グリーン購入を推進し，リサイクル商品及びリサイクルが容易な製品を購入します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報やホームページにより，ごみ減量化に関する情報を提供します。 ・ 清掃指導員による指導を充実します。 ・ 家庭の厨芥類やせん定枝をたい肥化し，有効活用を推進します。 ・ 有料化後のリバウンド対策を進めます。 ・ 「ごみけしくん」など，家庭用の生ごみ処理機器購入助成を普及促進します。 ・ リサイクル団体を支援育成します。 ・ グリーン購入を推進します。

環境負荷の少ないライフスタイルの促進

■ 取り組む背景・目的

地域全体でエネルギーや二酸化炭素 (CO₂) を抑制するためには、節電・省エネルギーの推進にくわえ、住宅・建築物や都市、交通などをエネルギーや CO₂ 排出の少ないものへと変えていくまちづくりが求められています。

東日本大震災を契機に、節電や省エネルギーに対する市民の意識が高まっていることから、こうした機運をとらえ、地球温暖化防止に向けた二酸化炭素 (CO₂) をはじめとした温室効果ガスの排出抑制と、エネルギー利用効率のよい環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を促進します。日常的に温室効果ガスの発生やエネルギーの無駄な消費を抑えるとともに、家庭や事業所でも取り組める方策として、太陽光発電、太陽熱利用システム、コージェネレーション、蓄電装置などの積極的活用や、省エネルギー型の製品への転換などを進めることも重要になっています。

■ 取組内容

- これまでの実績を基に、引き続き環境家計簿の普及拡大を図り、家庭における省エネルギー・省資源の取組を促進します。
- 体験型学習や具体的な情報提供、住宅用太陽光発電機器などに関する助成制度などを推進します。

各主体による具体的取組 (例)

市民	事業者等	市
<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境家計簿を使って節電、節水に努めます。 ・ 省エネルギー型製品(石油, ガス, 電化製品, 照明器具, 自動車, 建築物など)を購入します。 ・ 太陽光発電や太陽熱利用システムを導入します。 ・ 家庭でできる省資源・省エネルギーについて家族で話し合い、実践します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電気, 水道, ガスの使用量を把握し, 節電, 節水などに努めます。 ・ 省エネルギー型製品(石油, ガス, 電化製品, 照明器具, 自動車, 建築物など)を購入します。 ・ 太陽光発電や太陽熱利用システムを導入します。 ・ 製品の生産や輸送過程において, 温室効果ガスの排出を抑制します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境家計簿の普及に取組みます。 ・ 国分寺市地球温暖化防止行動計画に基づき, 温室効果ガス削減目標の達成に努めます。 ・ 地球温暖化防止対策に関する情報や省エネルギーの方法などの情報提供を行います。 ・ 公共施設の照明の LED 化を推進します。

環境面における参加と協働による地域の活性化の推進

■取り組む背景・目的

環境負荷の少ない持続可能な社会を次世代の子どもたちへ継承していくためには、一人ひとり、各事業所が環境に配慮した行動を実践し、広く展開していくことが重要です。

また、公民館や自治会、町内会などで地域のお祭りや懇談会、クリーン運動、地域の学校づくりなどの中に環境教育・環境学習を取り入れることで、自然なかたちで省エネルギーや省資源、ごみ減量などの意識が高まり、地域社会のつながりやふれあいを深めながら環境面の活動の推進を図ることができます。

このように、地域での環境面における参加と協働の機会を通じ、地域への関心・理解を深め、課題解決の実践・体験を基本とする環境教育・環境学習を展開していきます。

■取組内容

- 環境への取組に関して、地域ぐるみの役割分担や協力・連携の可能性の検討などを行い、地域コミュニティの再生・活性化を図ります。
- 子どもたちの国分寺の環境についての認識を高めるために、学校教育の現場と地域を結んだ取組を進めます。

各主体による具体的取組（例）

市民	事業者等	市
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館や自治会、町内会での活動に参加します。 ・ 出前講座、環境イベント、自然体験学習などへ参加し、地域の環境に関心を持ち、理解を深めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館や自治会、町内会での活動に参加、協力します。 ・ 出前講座、環境イベント、自然体験学習などに協力します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境をテーマとしたイベント等を企画・実施します。 ・ イベントなどで啓発を図ります。 ・ 市民、地域団体などが実施する地域での活動を支援します。 ・ 学校教育と地域の環境活動との連携を図ります。